

繊維と共に60年の回顧 (5)

福井精練・東レ・シーベルヘグナー在職を経て

第9章 本格的情報活動

1996年6月、日本シーベルヘグナー社を定年退職し、63歳でサラリーマン生活から解放される身となった。毎日の通勤や社内の会議、報告書づくりや訪問者などとの面談などからも解放された自由な時間は、これほど貴重なものはないと実感したものであった。そうして少しオーバーホールをしてから次の生活の準備を始めようとした矢先に、スイスから情報と執筆の仕事の提案が舞い込んできたのは思いがけない話であった。

一 スイス ITS Publishing 社での10年間

1996年9月にITS Publishing (以下、ITS) 社と称するスイス チューリッヒに本社を構える国際的規模の繊維技術系出版社に就職することになった。

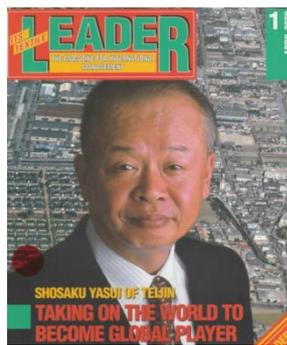
同社は「International Textile Bulletin」という一般衣料用途関連の技術誌と、「Nonwovens Industrial Textiles」という不織布と産業資材専門の技術誌を隔月刊で発行していた。前者は以前から“Bulletin”の通称でよく知られていた技術誌であった。両誌は英語、ドイツ語、フランス語の3版で別々に出版されていた。Bulletin版は、繊維、製布、染色加工、繊維機械、業界の動向をカバー、後者は不織布とテクニカルテキスタイル全般をカバーしていた。同誌の目次と出版スタッフを下記に紹介する。こうして不織布の情報雑誌に私がこの時以来、本格的に取り組むこととなった。

IMPRESSUM		CONTENTS • 4 th QUARTER 2000 - VOLUME 46	
Publishing House: ITS Publishing International Textile Service Ch. 8973, Schönenbuch, Switzerland Telephone: ++41 71 266 40 00 Telex: ++41 71 266 40 31 Internet: http://www.its-publishing.com e-mail: its@its-publishing.com	Publisher: Andreas A. Keller	SPECIAL	37 FR yarns for ship furnishings Dr. Heiner Zimmermann
Publisher's Assistant: Fanny Koller-Keller	Editor-in-chief: Jürg Rupp	7 Innovative transport textiles Derek T. Ward	NONWOVENS
Advertising Manager: Peter St. Eber	Consultation Manager: Rainer Schmid	12 System supplier to the automobile industry Jürg Rupp	40 Fast yarns for fast cards Erik Garret Gammegård
Scientific Advisory Board: Prof. Dr. Gernold Eggers Prof. Dr. Josef Caramelli Dr. Gerd Peter Bräse			44 ATME-I 2000 report Jürg Rupp
			51 Thermobonding calendar concept Dieter Jörg, Ingrid B. Döring

ITS Publication 社「Nonwovens Technical Textile」誌の目次案内

本誌の編集長は Jürg Rupp 氏で、豊富な分野を経験した技術系のジャーナリストであった。同社の編集スタッフも実に多彩で、数人の専属ライターが分野別に執筆していたが、なかでも女性ライターの Virginia Bodomer 氏は元・米国の経済誌の編集担当であり、鋭い市場分析は定評があった。彼女はその後、独立して「Textile Future」なる繊維情報誌を立ち上げている。今も私とは交流を続けている。

I T S 社には当時、もう一つ「ITS Textile Leader」と称する繊維の総合誌があり、年3回発行していた。これは化合繊・天然繊維・機械等あらゆる繊維分野の市場分析と経営を含む総合誌であった。当時、欧米で権威の高い繊維ジャーナリスト Eugene Dempsey氏が主筆として執筆していた。とくに業界のリーダーとのインタビューとトップ企業の企業分析は定評があった。私が I T S 社の雑誌に参画してからは、日本のリーディング企業も取り上げた。中でも帝人と当時の安居祥策社長の紙上インタビューや、同様に東レと当時の前田勝之助社長、豊田自動織機と豊田芳年社長、村田機械と村田純一社長など当時の日本のリーディング企業とそのトップリーダーのインタビューが続いた。そのほか中口、米国、欧州、南米の繊維関係企業のインタビューと企業の紹介は毎回読者が楽しみにしていた。



(写真左)「ITS Textile Leader」誌 主筆の Eugene Dempsey 氏

(写真右)「ITS Textile Leader」誌 帝人特集の表紙を飾る安居社長

帝人の安居祥策社長との取材は当時の吉川勝弘広報室長のご尽力により円滑に行われ、Dempsey 編集長が取りまとめ、7ページの豪華な記事となった。

同様の取材記事は東レの前田社長や、豊田自動織機の豊田社長なども行われて、2000年当時の日本企業の活躍を世界のリーダーに紹介されたのである。

なお、英才 Eugene Dempsey 氏によって当時の最新動向を紹介された世界の主なトップメーカーや研究機関は以下のリストの如くである。

- Dr. Henning Bahren 氏 (Kuster グループ CEO) (1992年2号)
- Philip Mosiman 氏 (Sulzer 社 CEO) (1992年2号)
- Forkert Blaisse 氏 (欧州繊維協会 (CIRFS) 会長) (1999年2号)
- Norbert Dahlstrom 氏 (Freudenberg 社 CEO) (1991年1号)
- Dr. Roshan Shisho 氏 (スウェーデン繊維研究所長) (1997年2号)
- Du Yuzhou 氏 (中口繊維協会会長) (2000年2号)
- Philip Mosimann 氏 (Sulzer Ruti 社社長) (1998年2号)
- Gerold Fleissner 氏 (Fleissner 社社長) (1998年3号)
- Charles Peter 氏 (欧州繊維機械協会会長) (1998年1号)

ところが、この世界的著名な繊維ジャーナリストの Eugene Dempsey 氏は健康的に恵まれず、2003年の夏に突然訃報が届いた。欧米人に多い、Heart Attack によるロンドンの

自宅での突然の死であった。「Textile Leader」誌は、彼の業績を引き継ぐ才学な方がおられなくて、残念ながらその後廃刊となった。



Fleissner 社 Gerold 社長(左) と Dempsey 主筆(右)の歓談

一 技術系誌との取り組み

ITS のスイス本社では繊維技術誌「International Textile Bulletin (ITB)」誌と先述の「Nonwovens International Textile (NIT)」誌は、引き続き隔月刊で発刊された。これらは「Bulletin」誌の出版以来、40年以上の歴史を有する伝統のある繊維技術誌であり、主筆の Jurg Rupp 氏と社専属のライター、欧米の著名なジャーナリストや技術研究者が執筆にあたった。私も日本・アジアの特派員として、両誌のほぼ毎号に技術報告書を執筆した。

また、ITMA や OTEMAS、CINTEMA、Tehtextil などの国際繊維技術展や繊維機械展などにも参加した。

ITS 社のスタッフ体制を示す当時の資料に、アジア支局長として、私の名が日本語で掲載されていた。それには恐縮したが、さすがに私の名前は珍しく欧州では活字にならなかった。本誌に最初に掲載された記事は、1997年に京都の国際会議場で開催されたアジア化合繊会議の報告記事で、アジアの化合繊企業のトップが一堂に会したイベントであった。



Fig. 2. Mr. Katsunosuke Maeda in his opening speech.

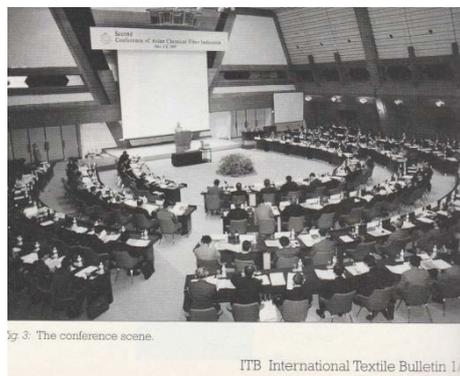


Fig. 3. The conference scene.

ITB International Textile Bulletin 1/9

(写真左) アジア国際化合繊会議の報告記事

(写真中) 議長の前田勝之助氏のあいさつ

(写真右) 第2回アジア化合繊会議の会場模様

当時の前田勝之助東レ会長をはじめ、著名なアジアのリーダーと懇意に取材できたのは思い出多い成果であった。丁度経済不況が漂った時期であったが、今後の展望として非衣料の産業資材、テクニカル・テキスタイルの勃興を提唱したのが今では思い出多いイベントであった。

会議は大盛況で本誌発行後はアジアをはじめ欧米各地の読者から感想やら問い合わせが沢山あったのも思い出深い。この頃から私も技術誌に対する投稿が多くなった。その頃、我が国で商業生産に入る話題になった PTT 繊維 (ポリトリメチレンテレフタレート) の紹介はトピックスであった。



PTT 繊維の開発を紹介する記事

1997年から2006年ごろまでは日本とアジアの情報を報告するのに多忙を極めたが、アジア支局の使命感を担って、最もハッスルした時代であった。当時の記事を抄録紹介するスペースもあまりないので、当時のレポートの代表的なテーマとその片鱗を下記に紹介したい。

◇京都工芸繊維大学で開催された染色化学国際会議報告（1997年2月）
この国際会議での貴重な写真も紹介しておこう。



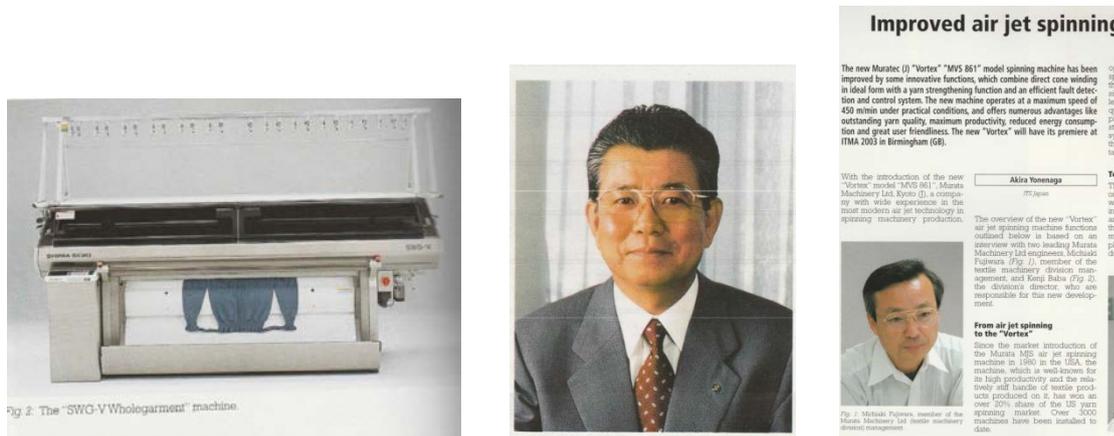
ノースカロライナ州立大のルッカー教授(左)と大妻女子大の高岸教授(右)
*** 高岸教授は色染工芸学科・昭39年卒**

◇新規横編み機の開発～島精機のホールガーメント機の紹介 (ITB 1998年1号)

島正博社長と島精機技術陣とのインタビューを通じて、注目のホールガーメント編み機を紹介した。同社のホールガーメント横編み機は当時の注目の話題となった編み機で、日本発の画期的な革新機械として読者の関心度も高かった。(ITB 1998年1号)

◇村田機械の改良エアジェット紡績機の紹介 (ITB 2003年4号)

村田機械の藤原部長から取材したエアジェット紡績機 Voltex の紹介記事



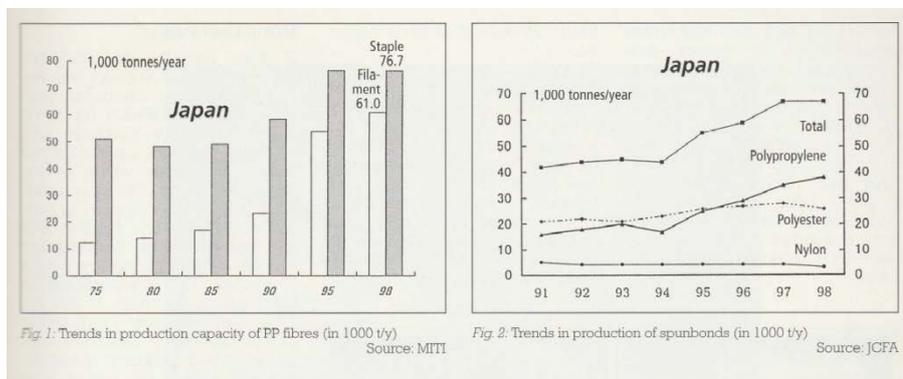
(写真左) 島精機の画期的な無縫製ホールガーメント編み機 SWG-V、
 (写真中) 島精機の島社長、(写真右) 村田機械の“Voltex”の紹介

◇日本における PP 繊維不織布紹介

当時、成長の著しい PP 不織布 (ポリプロピレン不織布) の日本における開発状況をメーカー別に紹介、当時のチッソや三井化学、旭化成などの状況を紹介している。本件は当時の重要なアイテムであったとされる。

(Nonwovens Industrial Textiles NIT 1999年4号)

原題：PP Fibers striving for prominent position in Japan



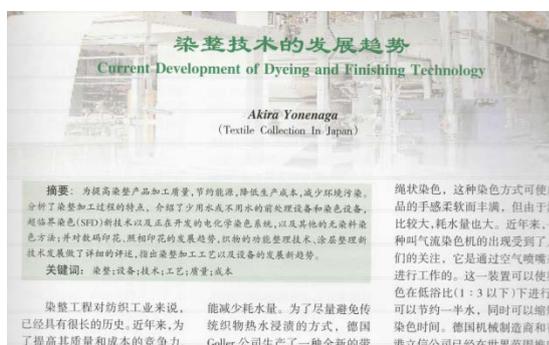
1998 年当時の日本の PP 繊維と不織布の紹介

◇マイクロファイバーの紹介 (ITB 2000年4号)

当時関心が高まってきていたマイクロファイバーを、主筆の Jürg Rupp 氏と共著で、6 ページにわたる長文で紹介。読者から多大の関心をいただいた。ITB 誌に、マイクロファイバーの日本における用途展開を紹介した。このころからマイクロファイバーが新技術として関心が盛り上がっていたので、誠にタイミングの良い記事であった。本稿は画期的な新素材の紹介でドイツ語の記事である。

◇ITS 中口誌への寄稿

ITS 社は当時、隆盛著しい中口への進出を狙って、現地の出版事業として「Textile Collection」と称する中口語の繊維技術誌を発行していた。私も日本からの出稿を依頼され、現地での中国語への翻訳の助けを通じて数回の中国語での繊維技術報告文の掲載を行った。その一片が下記の紹介である。



(写真左) ITB 誌に日本におけるマイクロファイバーを紹介
(写真右) ITS の中国語版「Textile Collection」への寄稿

(つづく)

(色染・昭31 米長 稔)